

第52回川崎市文化芸術振興会議意見等集約結果

〔議案1〕諮問「川崎市市民ミュージアムの復旧・復興に向けたあり方について」 に係る部会の設置について

承認する …… 10名

承認しない …… 0名

＜結果＞ 部会の設置を承認する。

＜関連する御意見＞

(諸富委員)

- ・川崎市市民ミュージアムの復旧・復興については、東日本台風前の状態に原状復帰するという視点ではなく、将来を見通した上で、施設の持つ役割や機能についても新たな視点で検討していただきたい。

〔議案2〕令和元年度文化アセスメント事業評価のヒアリング項目について (パラ・アート推進事業)

(垣内会長)

- ・本事業の目的は重要でかなり大きなものだが、実際の事業はかなり控えめである。今後も同様の規模で同様の事業を行うのでしょうか。
- ・障害者制度ではノーマライゼーションが重要かと思う。障害者に焦点をあてた事業の重要性を否定するものではないが、健常者との協働などは想定しないのでしょうか。
- ・見ごたえのある展示等であるが、参加者は限定的である。今後の周知や一般市民参加についてはどのように考えていらっしゃるのでしょうか。
- ・ホームページを拝見したが、フェースブックでの情報発信のようである。予算がやや高いように見受けられるが、これは財団のHPに特設するものという理解でよろしいのでしょうか。
- ・目的も事業執行も適切であろうと思われる。予算額も控えめで、その割には参加者も確保できており、障害者アーティストへの機会の提供という点でもユニークと思われる。ただ、事業目的にある社会包摂はこの事業からどのように導いていくのだろうか(御意見)。

(川崎副会長)

- ・パラアート推進事業については、資料及び参加委員からのコメントを拝見したところ、評価は妥当と考えます（御意見）。

(犬飼委員)

- ・Colors の展覧会は、今後も継続する予定ですか？続けるのなら同じ形態で実施するつもりですか？
- ・次回も2019年度のように巡回展を行うのなら、1日だけ、とどろきアリーナや新百合21でやるのではなく、作品を分散させて、各区の区民ギャラリーで1週間開催するほうが、多くの人に見てもらえるのではありませんか？
- ・調査・評価シート③市民の23参加の評価が、④だが巡回展の周知のあり方、参加者の人数などを考えると③なのではないでしょうか？
- ・Colors かわさき2019展のアンケート結果をみると回収率が、とどろきアリーナは、0なのは、アンケートを配布しなかったのでしょうか？
- ・来場者が川崎区民が多いのは、会場の関係で理解できますが、川崎市のほかの区より、横浜市や東京都の住民の来場が多いのは、何故なのでしょう？
- ・Colors かわさきのアンケート結果をみると、④と⑤では、肯定的分類しかないので、否定的な意味を含む意見も肯定的な中に分類されているのではないのでしょうか？
- ・パラアートミーティングは、参加者がとても熱心で、時間いっぱい座談会をやっていたのに、参加者26名中11名しかアンケートを、提出しなかったのは、何故でしょうか？
- ・Colors の展覧会は、他のパラアートの展覧会と比較しても素晴らしい内容なのに宣伝が足りないのではないのでしょうか？地域のテレビやタウン紙をもっと利用する考えはないのですか？
- ・普通高校の生徒と知的障害のあるアーティストの共同制作は、これからも続けていくのですか？
- ・多いとは言えない予算の中で障害のある人の施設や絵画教室で作品を制作して、Colors のような大きな展覧会を開くのは、大変な熱意が必要だと思います。成功している事業とは思いますが、もっと情報を発信して、来場者を増やせれば、作品が売れることにつながると思います。

(岡倉委員)

- ・支出一覧 展示プログラムの謝礼です。内訳では、エコ暮らしフェアとしています。展示プログラムの記載を見つけることができません。
- ・2018では、商品化の取組が行われています。この流れを支援の仕組みとすることは、できませんか。作品販売支援は、2020に継続しています。
- ・アンケートに、いろんな場所で、多くの人に、もう少しPRをとという声が多くありま

す。2020 では、改善、工夫を考えていますか。

- ・アンケートに、スタッフの対応を賞賛する声が複数あります。どのようなシステムになっているのですか。
- ・ネットワーク形成プログラムです。パラアートミーティングは、関係者にとって有意義なプログラムと思います。ネットワーク形成のイメージを教えてください。
- ・作品販売支援の川崎方式が成果を上げています。この方式を広めるに当たっての課題があれば、教えてください。
- ・2020 年度のHP情報発信プログラムの経費は、レンタルサーバー代位に縮減されますか。その経費は、どのプログラムに充当されるのですか。
- ・一般公募プログラムの団体の選出は、音楽、ダンス、人材育成など分野ごとに選出しているのですか。
- ・「かわさきパラムーブメント」と、どのような連携をとっていますか。

(佐藤敦子委員)

- ・参加者/来場者の属性について、(年齢が)50代の方が一番多かったのだろうか?と疑問に思いました。主催されている方々としては、どういう層の方々に来ていただきたいというターゲットのイメージはありますか?
- ・上記の質問にも関連することなのですが、広報活動は改善の余地がある、SNSなどの活用も要検討、という記載がありますが、どういった方々に来てもらいたいという思いがおありになるのか、そのために、追加的な手段はSNSが最適であるとお考えでしょうか?もしも若年層に来てほしいのであれば、地域の小中高の学校や大学への働きかけというのは選択肢になるでしょうか?

(鈴木委員)

- ・パラムーブメント、パラアートが何を表現するのか、多くの市民には、十分に理解されていたか。
- ・上記に関連しますが、TOKYO2020の開催に合わせたイベントを行ってはいかがでしょうか。
- ・パラアーティストの存在を多くの方々に知ってもらえるような取組を各種メディアを活用しては、同でしょうか。
- ・通年でパラアートを見たり、触れたりすることのできる場を作ってはいかがでしょうか。
- ・販売支援の一つとしてポスティング(入札)を行ったことは評価されたと思う。適正な価格の維持にも取組が必要と思いますが、いかがでしょうか。
- ・ラゾーナの協力を得て安価な作品を販売したところは、多くの購入者を呼び効果的な手法だと思う。今後も同様な取組にも力を注いでください。

(関委員)

- ・个性的で素晴らしい作品が展示されていましたが、せっかくの素晴らしい展示会に一

般市民を巻き込んだ鑑賞者がどのくらいでしょうか。別の会場・中原地区での開催が1日だけでは、趣旨から云って残念。何故1日しか、組まれなかったのでしょうか。

- 行政関係で発行する広報物とは別に、独自の広報活動はどのような形で展開されたのでしょうか。昨年に次いで、2回目となっていますが、その広報活動が気になりました。(関係者に限られているのでは)
- 企画だけでなく、この事業を盛り上げ、広く市民の皆さんの参加を作り出していく市民参加の実行委員会は構成されていたのでしょうか。そして、どのような活動が展開されたのでしょうか。市民文化団体等からの参加は？ 企画を推進し実行するする指導者、スタッフの皆さんはどのような方なのか気になりました。
- 作品を生み出していく営みと支援の活度は、大変なご苦労があるかと思いますが、その《人材育成》と《作り出す環境の整備》。その実態はどのようになっているのか。今後、行政としての政策と方針。財政的な裏付けは。
- 推進事業全体の財政規模が600万円程になっていますが、その財源は。国の推進事業として補助金、川崎市として拠出金は、どの位か。継続していくための財政補助は確保できるのか。事業の継続と創作活動を励ます「懸賞」は考えられないのでしょうか。
- 市美展、総文連の「市民芸術祭」などへの参加は考えられないか。参加を可能にする条件は？ あさお芸術のまちコンサートの関連事業としての参加されているような、幅広い諸行事のなかにも、積極な参加は考えられないのでしょうか。
- 「障害のある人もない人も共に文化芸術活動に取り組む環境づくり」とうたいながら、今回のような「特別の企画展」でしか実現できないのでしょうか。一般の美術展の中にも積極的な参加、それを可能とする環境があればと思いました。こんなに素晴らしく、力のある個性的で力のある作品を一般の美術展の中でも輝かせたものです。
- ミーティングの中で、繰り返し語られていた「寄り添う」「共に楽しむ」・そして「継続すること」で、川崎発で個性的な、すばらしい作品が生み出されていくのでは…。事業の継続に期待しています。

(藤嶋委員)

- 「コロナ禍」は、事業の効果や経費の面でどのような影響を与えたか？ 今後の事業の取り組みや対策にどのような影響を与えるか？

(諸富委員)

- パラアートはアーティストの個性やどのように製作に取り組んできたかを理解することで、作品への理解がさらに進むように思いました。そうしたことを解説するための工夫を今後どのようにされていくのでしょうか？
- コロナ後のアートに関わる製作・教育・展示・鑑賞環境は大きく変わると予想しています。一般の美術館等も様々な工夫をされているようですが、パラアートの普及にあたってはどの様に進められるのでしょうか？

＜結果＞ 各委員からのいただいたヒアリング項目（「(御意見)」となっているものを除く。）及び会議資料6「文化アセスメント（Colos かわさき展、パラアートミーティング）委員の感想取りまとめ」に記載の提案、質問事項を、ヒアリング項目として事業所管課へ送付し、回答を依頼する。

〔議案3〕 その他

(川崎副会長)

- ・現状を鑑み、文化振興計画の趣旨に基づいた事業の見直しなどが求められると思われま
す。当委員会も変化に柔軟に対応できるような提案や評価に切り替えていくことが求め
られると思っております。

(佐藤委員)

- ・もしもこの状況が長期化するのであれば、例えば Zoom 会議などの、オンライン会議で
生の意見交換の機会というのは、今後、選択肢になりうるのでしょうか？

(藤嶋委員)

- ・「コロナ禍」が文化アセスメント対象事業に及ぼす影響はどのようなものなのでしょう
か？事業の実施が、即感染拡大のリスクにつながる文化事業は、今危機的な状況に陥って
いると思います。ちょっとしたコンサートさえ開くことが出来ない。何をどうすればよい
のか、何か手がかりはあるのだろうか、そうしたじわじわと押し寄せる不安を感じます。

＜事務局回答＞

今年度の文化アセスメントにつきましては、事務局にて新型コロナウイルス感染症の拡大による各事業への影響などを確認したうえで、今年度の文化アセスメントや審議事項をどのようにしていくかについて、次回の会議で御審議いただきたいと考えております。

また、会議の開催方法につきましては、オンラインでの開催、一部委員のオンラインでの出席などを次回会議では検討しているところでございます。